

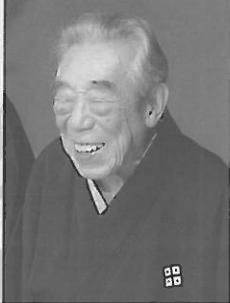


大阪樟蔭女子大学

第22回

東西狂言会

『呂蓮』僧
野村 萬



『栗焼』太郎冠者
茂山 千作

(財)東大阪市施設利用サービス協会
設立20周年記念事業

『鈍太郎』男 茂山 千之丞



日時

平成22年11月29日(月)

午後6時から午後8時30分(午後5時開場)

主催

大阪樟蔭女子大学

(財)東大阪市施設利用サービス協会

後援

東 大 阪 市

東 大 阪 市 教 育 委 員 会

東 大 阪 商 工 会 議 所

東 大 阪 菊 水 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ

番組

解説「座・狂言とは」

大阪樟蔭女子大学客員教授 木村 要

和泉流狂言

呂蓮
ろれん

僧 野村 萬

男 野村 万藏

女 小笠原 匡

後見 泉 慎也

《休憩》

座・狂言・大藏流狂言

栗焼
くりやき

太郎冠者 茂山 千作

主人 茂山 千三郎

後見 松本 薫

大藏流狂言

鈍太郎
どんたろう

男 茂山 千之丞

下京の女 茂山 正邦

上京の女 茂山 童司

後見 網谷 正美

《祝言》

狂言解説

呂蓮【ろれん】

宿の無い出家を我が家へ泊め、いつもお説教を聞くのを有難く思っているほど、在家でありながら仏道に帰依している男がいた。

ある日泊めた出家のお説教を聞き感激して、いつかは出家遁世して坊主になろうと思っていた宿願の想いを果たし、この出家の弟子になって諸国修行の供をしようと決心し、法名まで付けて貰う。ところが、それを知った妻はびっくり仰天……。

真面目なお説教の場面と滑稽な法名を付ける場面と、見せ所が二つになっているので、まとめ難い狂言である。

名作『狐塚』・『木六駄』などと同様に、演ずる力の配分が難しい。

栗焼【くりやき】

主人が到來物の見事な大きい丹波栗を焼き栗にさせ客をもてなそうとする。太郎冠者は台所でその栗を焼き上げ主人の所へ持つて行く途中で、あまりの美味そうな焼き栗の匂いの誘惑にまけて皆食ってしまう。

さあ大変！太郎冠者は目出度い竈の夫婦の神と二十四人の公達とを登場させて言い訳をしようとする。

上手く行けば拍手喝采と言うところだが……。

秋の季節には必ずどこかで演ぜられている秀逸の狂言である。演者の凝縮された演技が香ばしい焼き栗の匂いを客席まで漂わす事ができれば……。

鈍太郎【どんたろう】

訴訟の事で三年間、京都の家から離れていた鈍太郎が久々に帰京し、下京の本妻の所や上京の愛人の所を訪ねるが、二人とも眞の鈍太郎と思わず、近所の若者の悪戯だと思って追い返してしまう。

鈍太郎は途方に暮れ、それを仏縁と思い、元結を切つて隔夜(一定の期間、一晩ずつ特定の寺社を泊まり歩いて、仏道修行をする事)に入ろうとする。

一方、後で本当の鈍太郎が帰つて来たのだと、知つた下京の本妻は、上京の愛人と上下の街道で鈍太郎の通るのを待ち、二人の所へ通う日を決めて、鈍太郎に出家する事を止めさせる。

鈍太郎は二人の女に仲良く手車を組ませ、得意満面の顔で退場する。

男性にとっては楽しい結末でも、現在の女性にとっては屈辱的である。そのせいか、橋掛かりで鈍太郎を手車から放りだして退場する演出もある。

ある時代の社会を写しながらも、女性のたくましい生き方の一端が現れていて面白い。

出演者紹介

**茂山 千之丞**

【しげやま せんのじょう】

1923(大正12年生)生、三世茂山千作の次男。
1946(昭和21年)二世千之丞を襲名。
1925(大正14年)『以呂波』のシテで初舞台。
1935(昭和10年)『三番三』、1946(昭和21年)
『釣狐』を披く。)

1996(平成8年)年度芸術選奨文部大臣賞、1998(平成10年)松尾芸能賞優秀賞受賞。

写実的芸風で口跡もよく、新劇、歌舞伎にも積極的に参加し、新作狂言の出演も多い。

日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

**野村 万蔵**

【のむら まんぞう】

1965(昭和40年)生、初世、野村萬の次男。
2005(平成17年)九世野村万蔵襲名。野村家当主となる。
1969(昭和44年)『韌猿』の小猿で初舞台。
1990(平成2年)『釣狐』・1994(平成6年)『金剛』・1996(平成8年)『花子』を披くなど、狂言の大曲秘曲を数多く演じる。

父、萬譲りの品位ある芸風は現代では貴重な存在。

日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

**茂山 正邦**

【しげやま まさくに】

1972(昭和47年)生、十三世茂山千五郎長男。
父および祖父四世千作、曾祖父三世千作に師事。
1976(昭和51年)『以呂波』のシテで初舞台。
1986(昭和61年)『千歳』、1989(平成元年)『三

番三』

1993(平成5年)『釣狐』、2004(平成16年)『花子』を披く。

2005年度文化庁芸術祭新人賞受賞。

**茂山 童司**

【しげやま どうじ】

1983(昭和58年)生、茂山あきら長男・父および祖父二世茂山千之丞に師事。
1986(昭和61年)『魔法使いの弟子』(能法劇団)初舞台・『以呂波』初シテを勤める。
1997(平成9年)『千歳』・2004(平成16年)『三

番三』・2006(平成18年)『釣狐』を披く。

ひとり芝居「Sense Disease」に企画・制作・演出・出演する等意欲的な活動をみせる。

**茂山 千作**

【しげやま せんさく】

1919(大正8年)生、三世茂山千作の長男。
1994(平成6年)四世茂山千作を襲名。
1924(大正13年)『以呂波』のシテで初舞台。
1934(昭和9年)『三番三』、1940(昭和15年)
『釣狐』を披く。

明るい雰囲気の芸は抜群。海外公演・新作狂言にも参加し、NHKドラマ等にも幅広く活躍。

文化功労賞。日本能楽会会員。人間国宝(重要無形文化財個人指定者)。日本芸術院会員。

**野村 萬**

【のむら まん】

1930(昭和5年)生、六世万蔵の長男。
2000(平成12年)野村萬を襲名。
1934(昭和9年)『韌猿』の猿で初舞台。
1948(昭和23年)『三番叟』、1950(昭和25年)
『釣狐』を披く。

戦後、狂言興隆の推進力の役目を果たした中心的狂言師の一人。日本能楽会会員。人間国宝(重要無形文化財個人指定者)。日本芸術院会員。

**茂山 千三郎**

【しげやま せんざぶろう】

1964(昭和39年)生、四世茂山千作三男。
1967(昭和42年)『業平餅』子方で初舞台。
1980(昭和55年)『三番三』、1084(昭和59年)
『釣狐』を披く。

1999(平成11年)京都市芸術新人賞受賞。
2000(平成12年)『花子』、2005(平成17年)『狸腹鼓』を披く。
ミュージカル・オペラの演出、出演。テレビのキャスター・レポーター等幅広く活躍する。

日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

**小笠原 匡**

【おがわら ただし】

1955(昭和30年)生、八世野村万蔵に師事。
1986(昭和61年)『舟フナ』のシテで初舞台。
1989(平成元年)初世野村萬に師事・1990(平成2年)『千歳』を披く。

2003(平成15年)『釣狐』・2008(平成20年)
『花子』を披く。

2007(平成19年)千葉大学客員教授。

日本能学会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

**木村 正雄**

【きむら まさお】

1929(昭和4年)生、木村政一の長男。
1932(昭和7年)『以呂波』のシテで初舞台。
1972(昭和47年)『三番三』、1974(昭和49年)
『釣狐』を披く。

狂言の普及に力を入れ、新作狂言を28作創るなど、新しい狂言の在り方に努力し、第3回世界水フォーラムにて『琵琶の湖』を発表。

2008(平成20年)一人狂言『桜田門外快哉』を創る。

日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

日時 | 平成22年11月29日(月)

午後6時から午後8時30分(午後5時開場)

会場 | 東大阪市立市民会館 市民ホール

〒577-0809 東大阪市永和2-1-1 (近鉄奈良線河内永和駅・JRおおさか東線河内永和駅下車)

駐車場がございません。お車でのご来場はご遠慮下さい。

主催者以外のカメラ・ビデオ撮影は、著作権・肖像権にふれますので、かたくお断りいたします。

定員 | 1,500名 (小学3年生以下の子様のご入場はご遠慮下さい。)

入場料 | 無料・要整理券

※整理券配布について

整理券配布日時: 平成22年11月7日(日)午後2時から3時30分

配布場所: 東大阪市立市民会館 市民ホール

※お一人様につき、2枚まで配布。

【お願い】・入場には必ず整理券をご提示ください。

- 整理券1枚につき、1名様が入場できます。
- 整理券をお持ちの方でも、開演時間を過ぎますと整理券をお持ちでない方に入場いただきますので、入場できない場合がございます。

問い合わせ先 | 東大阪市立市民会館

📞 06-6722-9001



[協賛団体]

株式会社稻田歯ブラシ

代表取締役社長 稲田 真一

東大阪長栄寺郵便局

局長 杉山 恵三

木ノ本伸線株式会社

代表取締役社長 木ノ本 裕

株式会社布施公設

代表取締役 平井 良彦

大昭和精機株式会社

代表取締役会長 北口 良一

株式会社フセラシ

取締役会長 嶋田 亘

株式会社登プリント社

代表取締役 岩下 登

松下建設株式会社

取締役会長 松下 一治

(50音順)